

令和5年度 第1回三田市地域日本語教育推進懇話会 次第

日時：令和5/2023年6月29日（木）10：30～

場所：まちづくり協働センター講座室

（オンライン併用）

1 開会

2 あいさつ

3 出席者紹介 三田市地域日本語教育推進懇話会委員名簿

4 報告事項

方針策定後の取り組みについて

- ・懇話会の位置づけ 資料1

- ・やさしい日本語版について 別紙パンフレット

5 協議事項

今年度の取り組みについて 資料2

6 その他

次回の予定

- ・令和6/2024年2月 令和5年度第2回三田市地域日本語教育推進懇話会

三田市地域日本語教育推進懇話会委員名簿

	名 前	所 属 等
学識経験者	しんや まきこ 新矢 麻紀子	座長：大阪産業大学国際学部 教授
	えんどう ちさ 遠藤 知佐	副座長：立命館大学・大阪大学 非常勤講師
	よう じ 楊 梓	ダイバーシティ研究所研究主幹、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター リサーチフェロー
支援団体	すが もとこ 寿賀 素子	三田市国際交流協会 副会長
	なかむら えみ 中村 恵美	三田市国際交流協会 日本語サロン支援者
学校関係者	たなか ともひさ 田中 智久	三田市立三輪小学校長 (国際理解教育担当小学校長)
外国人雇用 事業者	まえかわ よしひこ 前川 嘉彦	社会福祉法人三翠会 統括施設長
外国人市民 当事者	にしむら 西村 ベラ スマリノグ	三田市国際交流協会推薦
	グザビエ・マルテル	三田市国際交流協会推薦
市民	せん よしあき 戦 嘉明	市民委員

(令和5/2023年4月1日現在、敬称略)

・事務局

三田市共生社会部

部長 岸本 昭人

共生社会部福祉共生室

室長 鶴 英治

共生社会部福祉共生室人権共生推進課

課長 橋本 純子

主幹 佐藤 まゆみ

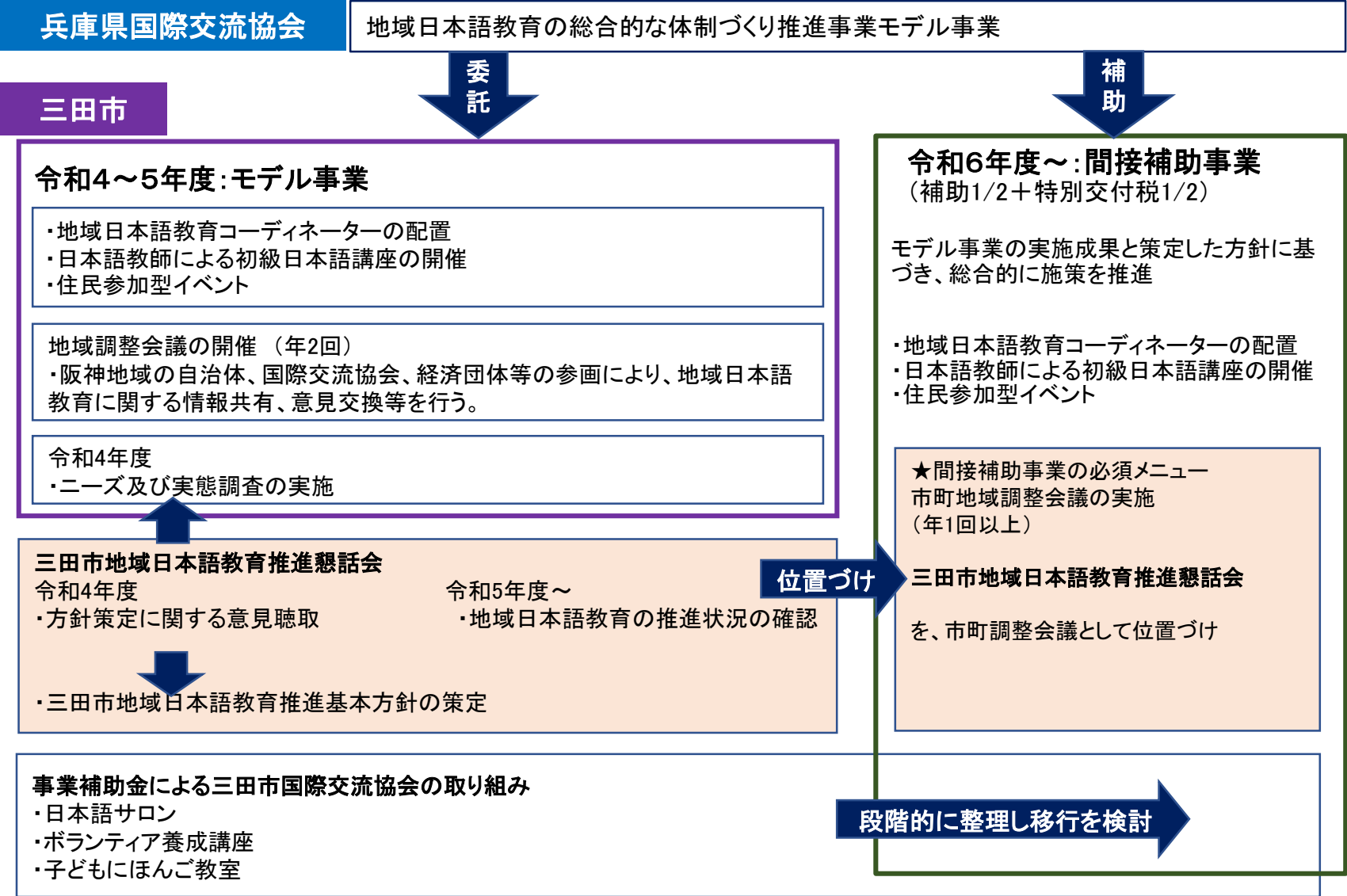
係長 梶谷 雅代

事務職員 高島 碧衣

三田市教育委員会学校教育部学校教育課

主任 鴻谷 亮介

三田市の地域日本語教育推進のフロー(イメージ)



三田市 地域 日本語 教育 推進 基本方針 の 概要 【やさしい日本語】

こんなまちにしたい

三田市は「多文化 共生 社会」をつくろうとしています。

- ①国や 民族、文化、生活のしかたなどが 違うことを 認める
- ②人権<=人として 生まれた時から 持っている 自由などの権利>を 大切にする
- ③一緒に 安心して 暮らす

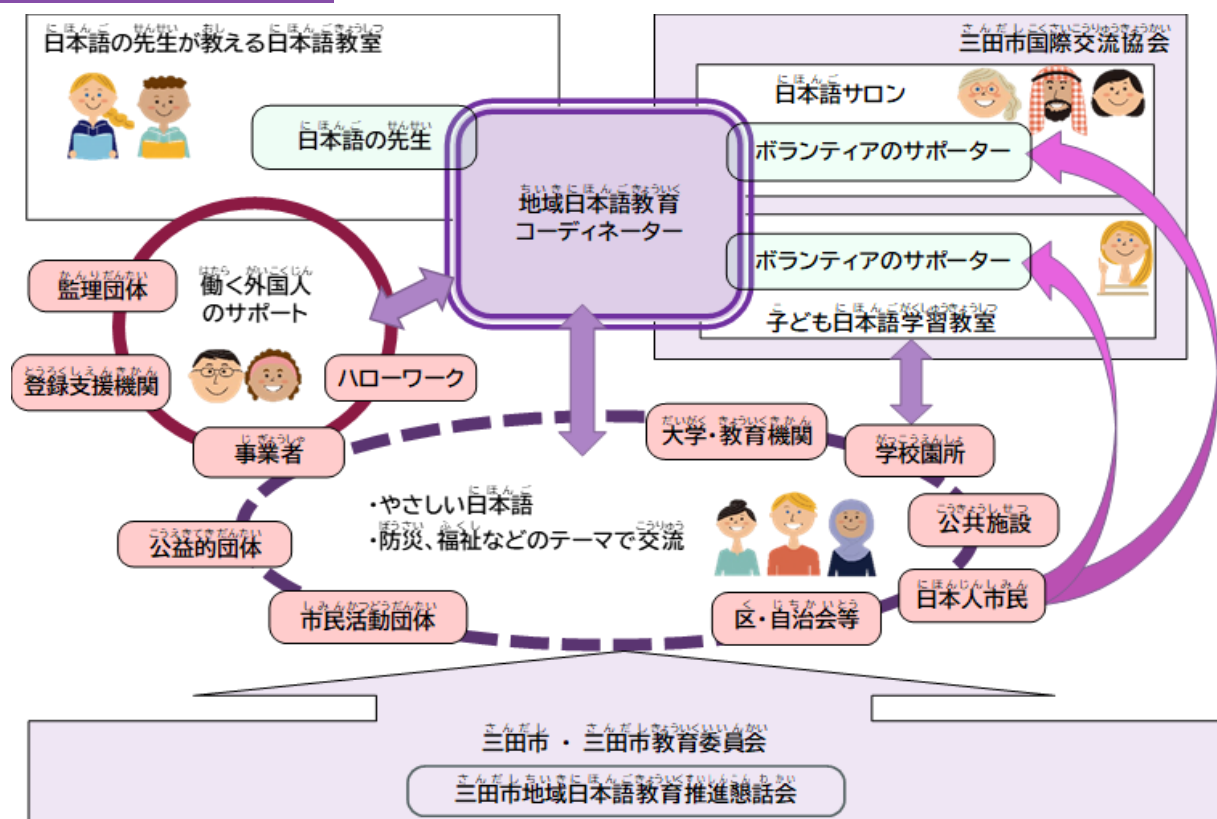
外国人のみなさんが、三田市で 力を しっかり 出せるように、次のことを 目指します。

多様な人が 織りなす 多文化共生のまち 三田
 <いろいろな人が つながって つくる 多文化共生のまち>

生活に 必要な 日本語が わかると、安全・安心に 暮らしやすくなります。日本語の 勉強が できる場所が 増えると、外国人市民が 日本語で 話すことが 多くなります。そして、日本人市民が やさしい日本語を 使ったり、日本語の勉強を 手伝ったりすると、お互いのことが よくわかって つながりが 多くなります。

そうすると、三田市は、みんなが 生活しやすい まち、元気で 豊かな まちに なります。まわりの人との つながりを 大切にして、国や文化のちがう いろいろな人が 力を 出して、もっと 国際化が 進んだ 新しい社会をつくれます。

すす 進めるイメージ



やっていくこと

1 いろいろな 学習の 場所を 多くする

- ◆ 外国人市民が、日本語を 勉強できる 場所を 多くします。いろいろな 人にとって、よい方法や 場所を 考えます。いろいろな 方法で 情報を 伝えます。
- ◇ 日本語が 勉強しやすいように、いろいろな 教室を します。
 (例:インターネットを 使って 勉強する 教室、仕事の 場所での 教室、防災<=地震や台風のとき、自分を守ること>や子どもを 育てるために 必要なことが 勉強できる 教室)
- ◇ 日本語の 教室や 勉強の 方法などの 情報を、わかりやすく 伝えます。
- ◇ 楽しく 日本語の 勉強が できるように 工夫します。

2 日本語の 先生と ボランティアが 協力して 進める

- ◆ ボランティアと 一緒に 勉強する 日本語サロンを 続けます。新しく 日本語の 先生が 教える 教室を つくれます。両方を 大切にして、三田市だけの しくみをつくれます。
- ◇ 日本語の 先生から、日本語を 習うことが できるように します。
- ◇ 三田市で 生活するために、役立つ 情報を 知ることが できるように します。

3 みんなが 日本語を 勉強する人を 助けられるようにする

- ◆ ボランティアを 多くします。外国人が 日本語を 勉強するのを 手伝える力を 高めます。
- ◆ 「やさしい日本語」を使ったり、一緒にいる機会を 多くしたりして、市民みんなが お互いを知ることが できるように します。
- ◇ 日本人市民が やさしい日本語を 使えるようになるために、勉強する機会を つくれます。
- ◇ みんなが いろいろな文化を よく 知ることが できるように、話をする機会を 増やします。
- ◇ 日本の 生活に 慣れていない 外国人市民が、新しく 来た人を 助けられるしくみを 考えます。

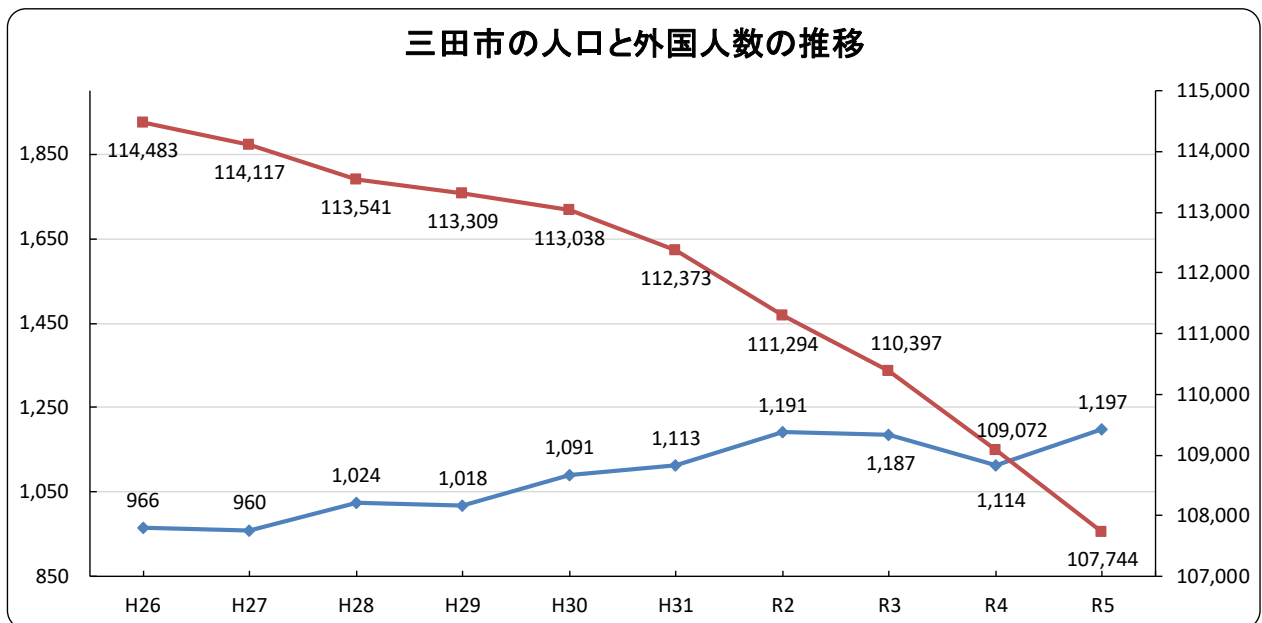
4 いろいろな 団体と 協力して 一緒に 進める

- ◆ 会社や 学校など、いろいろな 団体と 協力して、三田市全体で、外国人市民が 生活に 必要な 日本語を 勉強できるように します。
- ◇ 外国人市民が 困っていることを 知って、必要な 手伝いが できるように します。
- ◇ 会社と 協力して、技能実習生や 仕事をしている 外国人と その家族が、日本語を 勉強しやすくなる 方法を 考えます。
- ◇ 市役所で「やさしい日本語」を使うように します。「やさしい日本語」や 防災などの 勉強で、自治会<=近くに 住んでいる人のグループ>などと 協力できるように します。

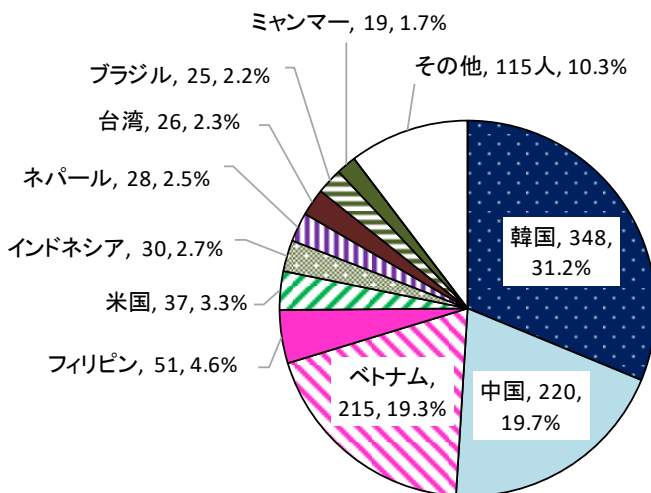
今年度の取り組みについて

1 外国人市民の現況

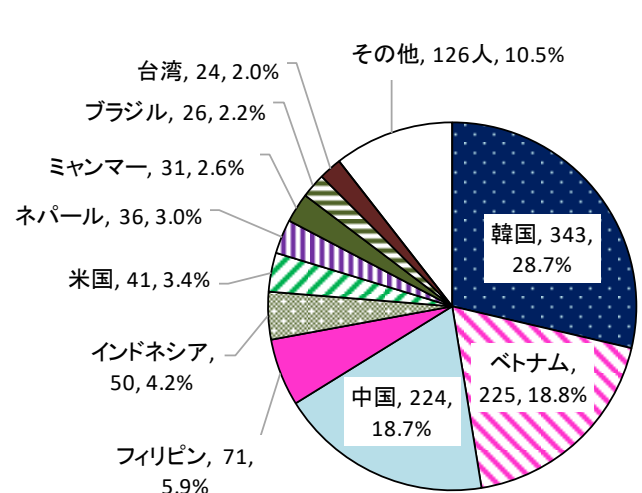
- ・令和5年3月末時点で、外国籍の市民は1,197人（46国・地域）。前年同月と比較すると83人の増で、コロナ禍前と同程度となっている。一方、本市の総人口は前年同月比で千人以上減少しており、外国人が総人口に占める割合は1.11%と増加している。
- ・国籍・地域別では、韓国が28.7%で最も多く、ベトナム、中国がそれぞれ19%台で続き、アジアの国・地域が多い状況となっている。
- ・在留資格別では、特別永住者が24.2%で最も多く、永住者23.0%、技能実習11.8%と続いている。前年同月と比較して、特に永住者、留学、特定技能の在留資格が増加している。



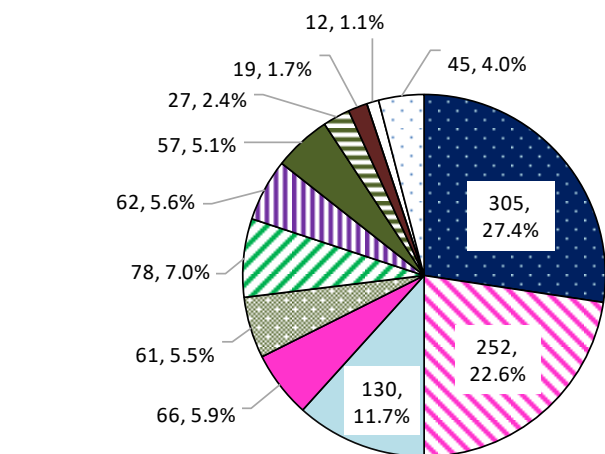
【令和4/2022年3月末】



【令和5/2023年3月末】



【令和4/2022年3月末】

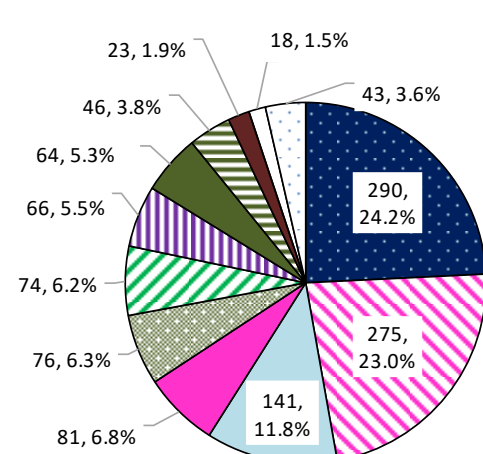


■ 特別永住者
 ■ 家族滞在
 ■ 特定技能

■ 永住者
 ■ 技術・人文知識・国際業務
 ■ 定住者

■ 技能実習
 ■ 日本人の配偶者等
 ■ 介護

【令和5/2023年3月末】



■ 留学
 ■ 特定活動
 ■ その他

2 前年度の取り組み

(1) 日本語教師による日本語講座

：初級日本語教室「さんだくらしのにはほんご教室 対面」

【目標】暮らしのなかで出会う様々な場面で必要な日本語が理解でき、コミュニケーションがとれる。

【日時】令和4年9月4日～11月6日 各日曜日 10:00～12:00 全10回

【実施場所】三田市商工会館

【対象・受講者】日本語初級レベル10人（国・地域：インド・バングラデシュ・ベトナム・フィリピン・台湾・フランス・ネパール、属性：社会人、学生等）

【日本人参加者】地域日本語教育コーディネーター2人、サポーター7人

【受講者募集方法】市広報誌多言語版、チラシ、HP、HIAメルマガ、日本語サロンで案内等

【内容】テキスト：「できる？できた！暮らしのにはほんご（兵庫県国際交流協会）」。自己紹介、災害、買い物、薬局で薬を買う、三田を楽しむ、年賀状を書くなど。

【成果と課題】成果：「薬の名前がわかった」「ごみを出す日を間違えていた！」「いままで大変だったことが少なくなった」などの感想があった。日常生活につながる具体的な学習ができたことから、学習者の達成感が大きく、「楽しかった」という感想が多かった。また、グループ学習を通して学習者同士の繋がりができ、教室終了後も連絡を取り合うなど、一対一の支援では難し

い学習者同士の関係を築くことができた。課題：欠席の場合の連絡方法。初級より少し上のレベルへの対応。

：初級日本語教室「さんだくらしのにはほんご教室 オンライン」

【目標】暮らしのなかで出会う様々な場面で必要な日本語が理解でき、簡単なやりとりができる。

【日時】令和4年11月9日～12月14日 各水曜日 18:00～20:00 全6回

【実施方法】オンライン（Zoom）

【対象・受講者】日本語初級レベル8人（国・地域：中国・ベトナム・バングラデシュ・ネパール、属性：会社員、学生等）

【日本人参加者】地域日本語教育コーディネーター2人、サポーター6人

【受講者募集方法】市広報誌多言語版、チラシ、HP、HIAメルマガ、日本語サロンで案内等

【内容】テキスト：「いろどり 生活の日本語（国際交流基金）」。生活に必要な初級日本語（自己紹介・食べ物の好き嫌い・休日・趣味・病院に行く等）

【成果と課題】成果：オンラインのメリットを活かし、音声の聞き取りが容易で、学習者の聞く力を伸ばすことができた。ブレイクアウトルームでは学習者から自身のことを積極的に語るなど、支援者との会話が弾んだ。オンラインツールの「パドレット」を使用することで、参加者はいつでも学習内容の振り返りができ、復習などに役立った。課題：実施時間の設定。18時からでは、仕事をしている人には早く、子育て中の人には食事時間と重なるが、18時より遅くなると支援者の負担が大きくなる。事前のレベルチェックに関する事務など、対面学習に比べ準備に要する時間がかかる。

：子育てのにはほんごひろば

【目標】子育てに必要な日本語の学習と情報の提供。子育て中の人同士の交流促進

【日時】令和5年1月15日～1月28日 各日曜日 10:00～12:00 全3回

【実施場所】フラワータウン市民センター

【対象・受講者】子育て中の外国人保護者3人 託児2人、（国籍：フィリピン・中国）

【日本人参加者】地域日本語教育コーディネーター2人、協力者5人

【受講者募集方法】市広報誌多言語版、チラシ、HP、HIAメルマガ、日本語サロンで案内等

【内容】オリジナル教材。病院受診。親同士の交流。園への連絡の仕方など。

【成果と課題】成果：乳幼児健診、病院受診の際に必要な会話や言葉などテーマを絞った学習により、三田市の子育てに関する情報を提供することができた。課題：事業の周知についてなるべく早く情報提供や声掛けを行うことが必要。

（２）住民参加型イベント

：支援者向け講座「日本語学習支援のためのやさしい日本語」

【目的】日本語支援の際に必要な「やさしい日本語」を考える

【対象・参加者】外国人への日本学習支援に関心のある人 参加者 20人

【日時】令和4年8月27日（土）13:30～15:30

【実施場所】まちづくり協働センター

【講師】神戸日語学院専任講師、兵庫県国際交流協会登録日本語講師 斎藤 明子さん

【内容】やさしい日本語について学んだ後、外国人学習者を相手にやさしい日本語の実践。

：一般向け講座「やさしい日本語講座」

【目的】やさしい日本語を知って、使ってもらおう

【対象・参加者】やさしい日本語に関心のある人 参加者 18人

【日時】令和4年11月23日（水・祝）14:00～16:00

【実施場所】まちづくり協働センター

【講師】兵庫県国際交流協会 外国人県民インフォメーションセンター相談員 村松 紀子さん

【内容】やさしい日本語についての説明後、やさしい日本語への言い換え練習。

：支援者向け講座「日本語でおしゃべりしよう！」

【目的】やさしい日本語での対話を通して、日本語支援を考える

【対象】やさしい日本語での対話型活動に関心のある人 参加者 28人

【日時】令和4年12月12日（月）13:30～15:30

【実施場所】ウッディタウン市民センター

【講師】聖心女子大学教授 岩田 一成さん

【内容】日本語学習者との対話のコツや支援に必要なやさしい日本語

：成果と課題

定員を上回る申し込みがあり、これまで三田市国際交流協会の活動に関わりがなかった人の参加もみられた。参加者からは、「とてもわかりやすかった」、

「実際に使ってみたい」、「仕事でも使いたい」といった感想があった。さらにより多くの人に参加してもらえるよう、実施方法や効果的な実施日を検討する必要がある。また、職場でのやさしい日本語など、対象やテーマに応じた周知・啓発が必要である。

(3) 総括

地域日本語教育コーディネーターと日本語サロンに関わっている有志のサポーター、兵庫県国際交流協会、市によるプロジェクトチームにより、定例的に打合せを行い、情報共有を行いながら事業を進めることができた。特に、事業の企画や準備、参加者のサポートなど、サポーターの関わりで効果的な取り組みとなった。

3 今年度の取り組み予定

(1) 目標

モデル事業終了後に間接補助事業へ移行し、事業を継続的に実施していくことを見越し、昨年度とは異なる切り口（場所、回数、テーマ、連携先等）によりモデル的取り組みを実施する。

(2) 日本語教師による日本語講座

アンケートでニーズの高かった、三田地区、ウッディタウン地区の2地域で開催。1タームの回数を10回から12回に変更。

：初級日本語教室「さんだ・くらしのにはんご教室」三田地区会場

令和5年4月～7月 各日曜日 10:30-12:30 全12回

：初級日本語教室「さんだ・くらしのにはんご教室」ウッディタウン地区会場

令和5年9～11月 各日曜日 10:30-12:30 全12回

(3) 住民参加型イベント

様々な対象に向けて、年4回講座を予定。モデル的な取り組みとして、事業者向けの「やさしい日本語講座」を開催し、これまでつながりが持てていなかった事業者へのアプローチのきっかけとする。

また、「防災」をテーマに自治会と協働し、災害時を想定した日本語学習と支援の実践を通じて、Win-Winの関係が構築できるよう取り組みを行う。

：日本語学習支援に関心のある人向け講座

令和5年8月26日(土) 15:00-17:00、令和5年12月9日(土) 午前中

：やさしい日本語講座

【一般向け】令和5年11月18日(土)Friendship day in Sanda のイベント内

で実施を予定。

【事業者向け】昨年度実施した事業者アンケートでやさしい日本語への関心が高かった福祉・医療系事業者のニーズを把握するため、実施手法等について社会福祉法人施設長に相談（地域コーディネーター、市）。

◇共有した企画案

対象：外国人を雇用している事業者、雇用を検討している事業者

内容：なぜやさしい日本語が必要かという導入部分の説明を行う。外国人と会話するコツなど実際の現場で役立つ情報を学べる講座とする。（話を理解できているか確認するための聞き方、投げかけの仕方など。）

日時：令和6年1月中旬頃、午後 3時間程度

場所：三田市総合福祉保健センター 多目的ホール

周知：社会福祉協議会、商工会、青年会議所などに協力いただき、広報を行う。事業者アンケートで関心を示した事業者に案内を送付する。

：地域と協働した防災訓練の開催

地域の防災訓練に外国人が参加し、地域の人と防災について考える機会とする。受入可能な自治会を調整中。

（4）課題

：2か年の実施内容の評価・検証

モデル事業終了後に間接補助事業へ移行し、事業を継続的に実施していくことを見越して、実施内容の評価・検証と今後のプランニングを行う。

：方針に基づく地域日本語教育モデルの構築

方針では、目指す方向性の一つとして、「日本語教師とボランティアの両輪で進める地域日本語教育」を掲げている。外国人市民の居場所としても機能しているボランティアによる既存の「日本語サロン」と日本語教師による日本語教室を、地域日本語教育コーディネーターがつなぐという本市独自の地域日本語教育モデルの構築に向けて、安定的・持続的な運営が可能となるよう課題整理・調整を行う。